

セッション2 後半D グループ

発表者：鴻巣麻里香さん（非営利任意団体 KAKE COMI 代表・精神保健福祉士）

発表テーマ：貧困

発表タイトル：カケコミのココロミ “与えられる” から、“与える” へ
こども食堂“たべよまなぼ” から、まかないこども食堂“TABEMANA” へ

鴻巣さんは、家庭の経済状況や学校に適應できるかどうかでこどもの将来の可能性が狭められていることに課題を感じ、生きづらさを抱えたこども（小学生～高校生）と、こどもをサポートしたいと願うおとなたちをオーガナイズし、福島県白河市で毎週1日こども食堂を開いています。当事者であるこどもたち、通ってくるこどもの保護者や一人親に加え、余剰野菜をいかして地域貢献したい地元の生産者など、問題に関心があり積極的に食堂の運営にかかわる人々の輪を広げています。2016年12月までに、こどもが料理をし、手伝いをするご飯を無償で食べられ＝まかない、地域のおとなたちにも開かれた「まかないこども食堂 TABEMANA」を作ることを目指しています。

2015年9月に食堂を始めてすぐ、こどもができること（料理、他のこどもに勉強を教えるなど）をして運営に関わることが、彼らの自尊心の回復につながることに鴻巣さんは気づき、彼らと、誰よりも問題を気にかけている保護者たちが、利用者ではなく同志であるという考えに至ったそうです。その後半年間で25人以上の人たちと一対一のミーティングをし、当初3人だった中心メンバーが17人に増え、5つのチーム（こどもシェフチーム、ママチーム、高校生ボランティアチーム、フードバンクチーム、プレスチーム）で活動しています。当日の参加者から、チームを作る上で一番苦労したことについて聞かれると、最初に借りていたお店のオーナーとの関係構築の不足から、活動を進めるうちに貧困に対する価値観が異なっていることがわかり、突然貸し出してくれなくなったこと。そこで初めて利用者のシングルマザーたちに相談をしたところ、皆力になってくれて新たなお店を見つけられたエピソードから、メンバーを頼ることの大切さがわかり、スノーフレークを意識しているとのことでした。また、メンバーの主力であるこどもは、成長の過程で気持ちに揺らぎの出ることが誰でもあり、自分と他人を比べて落ち込むこどものケアにも気をつけているそうです。

また、現在食堂に来ている層よりも一層深刻な当事者が来られるようにするために何ができるか、参加者に新たなアイデアを求めたところ、学校の先生に相談することで必要性の高いこどもを見つけることができるのではないか、という助言がありました。また、公共交通機関が少ないためにこどもが一人で食堂に来るのが難しい状況を変えるために、観光バス会社、タクシー会社など運輸関係と協力関係を築くアイデアが挙がり、鴻巣さんにとっても気づきのあるセッションになりました。